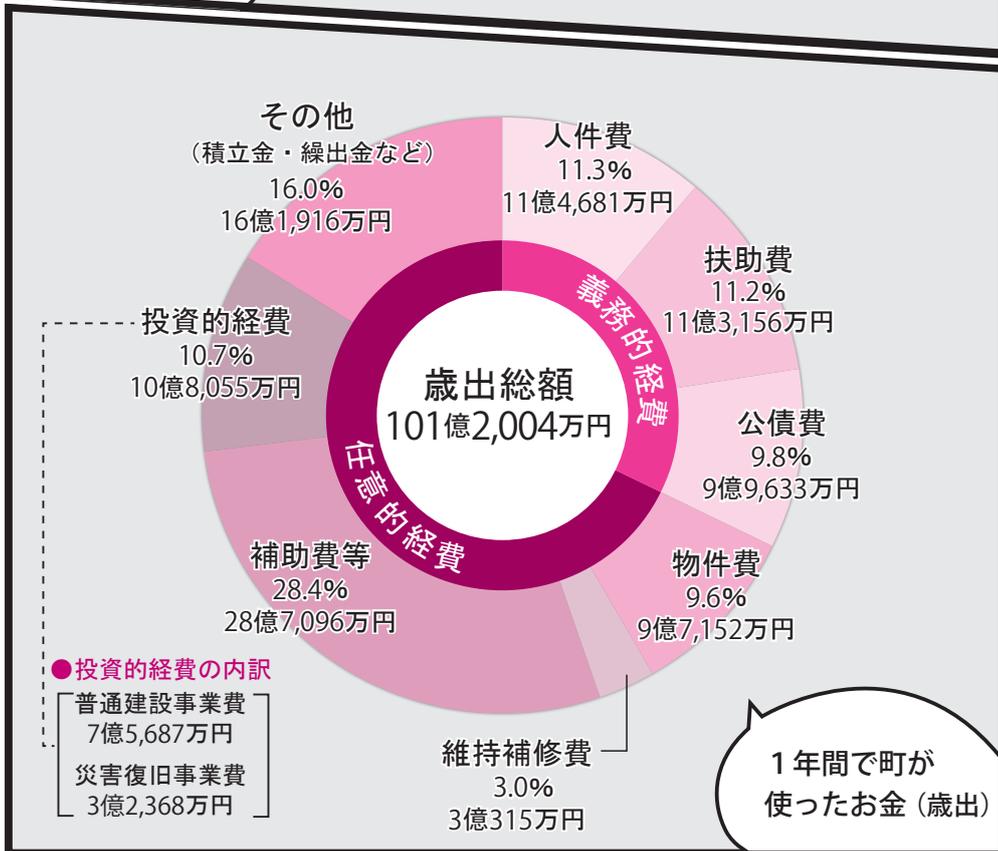
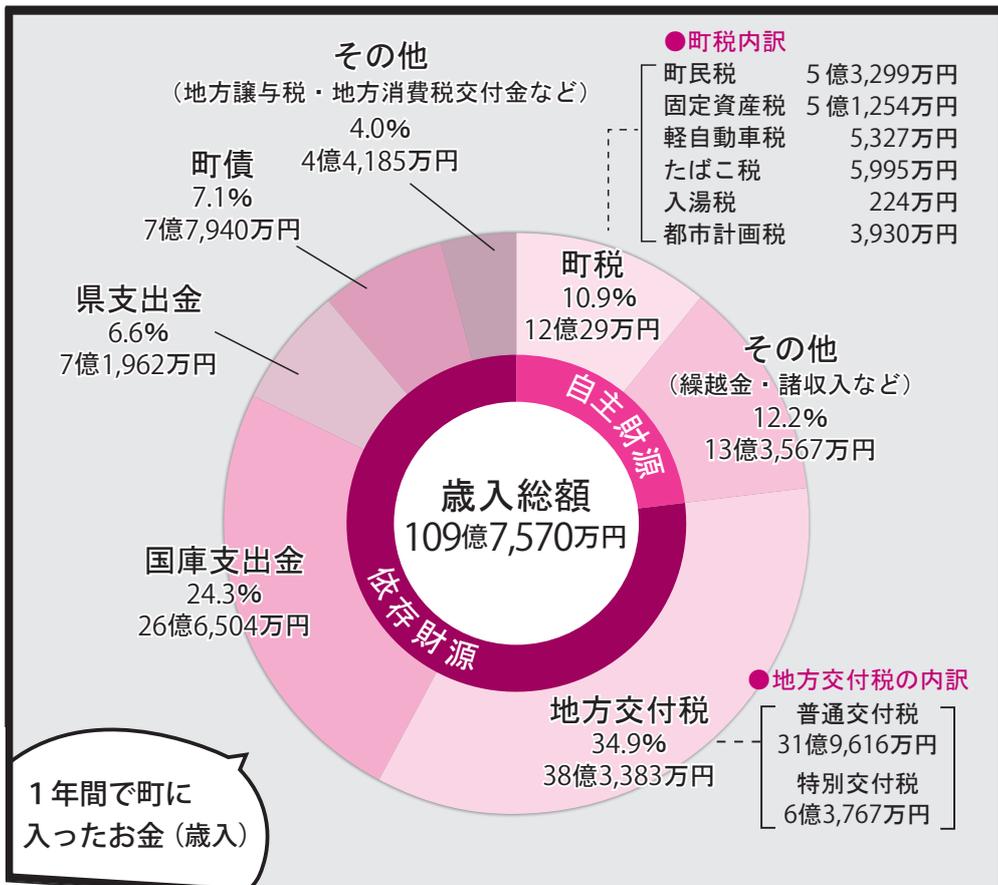




令和2年度一般会計の決算内訳がコチラ！

皆さんに納めていただいた税金の使い道がわかる！

まちの財政状況



令和2年度の決算を報告します。



基金と地方債の年度末残高の状況を見てみよう!

●積立基金（貯金）残高の推移

町民一人あたり残高 200,911円（前年比 +19,925円）



●地方債（借入金）残高の推移

町民一人あたり残高 904,227円（前年比 +4,386円）



今の白鷹町の財政状況はどうなっているのかなあ？

主な基金（積立基金）の積立状況

名称	金額
財政調整基金	9億5,527万円
減債基金	6億709万円
公共施設整備基金	5億4,374万円
スポーツセンター整備基金	1億993万円
福祉振興基金	1億2,628万円
その他の基金	3億67万円
積立基金合計	26億4,298万円

「基金」とは？

特定の目的のために積み立てる町の預貯金のことです。財政調整基金や今後の事業のために積み立てを行うもの（積立基金）のほか、定額の資金を運用するためのもの（定額運用基金）があります。

前年度との比較と今後の見通しについて...

令和2年度は、共創のまちづくりの理念のもと、総合的かつ持続可能なまちづくりを進めるための各種施策を展開するとともに、全国的に感染が広がった新型コロナウイルス感染症と、7月に本町を襲った豪雨災害への対応を実施しました。

一般会計における決算は、前年度に比べ歳入総額で6億6693万円（6.5%）、歳出総額で5億2570万円（5.5%）上回る結果となり、収支差引は8億5566万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができる町税などの**自主財源**は、まちづくり複合施設整備事業の終了に伴い公共施設整備基金繰入金などが皆減となったことなどにより、前年度に比べ約2億5875万円の減少となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債（借入金）などの**依存財源**は、約9億2568万円の増加となりました。

歳出については、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、会計年度任用職員制度の開

始により人件費が約1億8143万円、公債費（借入金返済）が約7079万円の増加となりました。義務的経費以外の**任意的経費**では、普通建設事業費（公共・公用施設の整備経費）が、まちづくり複合施設整備事業の終了等に伴い約19億8124万円減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策である特別定額給付金給付事業等の実施により補助費等が約14億738万円増、豪雨災害の対応により災害復旧費が約2億8991万円増となりました。そのほか、コロナ禍における財政需要等に備え、感染症対策基金（3300万円）、地域経済変動対策基金（1億円）を設立しました。

持続可能で健全な財政運営を基本とした取組を進めていますが、公債費等の義務的経費が少しずつ増加していることに加え、国から配分される地方交付税と国や県の補助金などへの依存度が高く、自主財源の確保が大きな課題となっております。

引き続き、計画的な行財政改革の推進に努め、より良いまちづくりを進めていきます。

では、具体的にどのようにお金が使われたのか、気になる中身を次のページで見よう!



令和2年度は、このように お金が使われました！



歳出を町民一人あたりで見ると

総額 76 万 9,292 円 (+5 万 4,470 円)

※町民一人あたりの金額は、令和3年3月31日現在の町の住民基本台帳人口1万3,155人で割ったものです。

民生費

民生費とは、障がい者や高齢者に対する福祉、子育て支援などのための経費です。

使われたお金…20億6,026万円
→町民一人あたり…15万6,612円 (前年比▲2万8,958円)

障がいのある方への福祉サービスの提供をはじめ、住民が主体となった高齢者等の居場所づくりや、寄附金を活用し各保育所が行うソフト事業を支援するなど、障がい者・高齢者福祉及び子育て環境の充実・支援に取り組みました。

衛生費

衛生費とは、母子保健、医療、環境などのための経費です。水道事業会計、病院事業会計への支出も含まれます。

使われたお金…7億2,190万円
→町民一人あたり…5万4,877円 (前年比+1万3,072円)

各種検診等の実施により健康寿命の延伸に努めたほか、「子育て世代包括支援センター」におけるきめ細やかな支援として、コロナ禍に対応した妊婦のオンライン相談の導入など、妊娠期から子育て期までのさまざまなニーズに対し、切れ目ない支援に取り組みました。

加えて、病院事業の経営安定化のため繰出金の増額対応を行いました。

農林水産業費

農林水産業費とは、農業・林業・水産業振興の事業のための経費です。

使われたお金…5億7,991万円
→町民一人あたり…4万4,083円 (前年比▲7,054円)

基幹的産業である農業の担い手育成支援とともに、深刻化している農作物の鳥獣被害に対応するため、電気柵設置支援や狩猟免許取得支援・緩衝林の整備などに取り組みました。

商工費

商工費とは、商工業振興、観光振興などの事業のための経費です。

使われたお金…6億1,674万円
→町民一人あたり…4万6,882円 (前年比▲3,475円)

企業立地促進事業として雇用の場の確保を図るための補助金を交付したほか、地域経済対策として新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者へ対する支援や全町民への地域応援券の配布など経済対策として各種事業を実施しました。

土木費

土木費とは、道路、橋、河川、公園など、まちづくりのための経費です。

使われたお金…6億9,560万円
→町民一人あたり…5万2,877円 (前年比▲1万3,861円)

町道や橋梁の長寿命化工事を行うとともに、住宅のリフォームに対する支援や若者世代の定住促進のための住宅施策等に取り組みました。また、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の視点でまちづくりを進めるための立地適正化計画を策定しました。

教育費

教育費とは、学校教育や生涯学習の充実、スポーツ等の振興のための経費です。

使われたお金…9億94万円
→町民一人あたり…6万8,487円 (前年比+1万168円)

GIGAスクール構想に基づき、児童生徒の一人一台端末の導入や高速通信ネットワーク整備などICT環境の充実を図るとともに、老朽化した学校施設の改修を行い、安全で快適な学習環境を確保しました。また、郷土に対する知識と理解を深めるため歴史民俗資料館の整備を行いました。

公債費

公債費とは、地方債を返済する元利償還金と一時的な借入をした場合の支払利息のことをいいます。

使われたお金…9億9,633万円
→町民一人あたり…7万5,737円 (前年比+6,780円)

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済などに使われました。

その他

総務費、消防費、議会費、労働費、災害復旧費などです。

使われたお金…35億4,836万円
→町民一人あたり…26万9,735円 (前年比+5万76円)

総務費では、新型コロナウイルス感染症対策関連事業として、国による特別定額給付金給付事業を実施したほか、地域おこし協力隊の活動支援など地域づくりに資する事業を行いました。また、消防費では、小型ポンプ積載軽自動車配備などを実施しました。災害復旧費では、豪雨災害復旧工事を行いました。これらのほか、議会費、労働費に対応しました。



令和2年度に実施した 主な取り組み (抜粋)

- 1_ 豪雨災害の復旧作業
- 2_ 完成した歴史民俗資料館
- 3_ GIGAスクール構想によるタブレット端末学習

(※万円未満は端数調整あり)

会計名	歳入	歳出	歳入歳出差引額
十王財産区特別会計	370万円	19万円	351万円
下水道特別会計	4億6,373万円	4億4,853万円	1,520万円
国民健康保険特別会計	14億9,718万円	14億7,353万円	2,365万円
農業集落排水特別会計	1億5,689万円	1億5,163万円	526万円
介護保険特別会計	16億7,746万円	16億1,314万円	6,432万円
後期高齢者医療特別会計	1億6,084万円	1億5,878万円	206万円
水道事業会計〈収益的収支〉	3億164万円	2億6,562万円	3,602万円
水道事業会計〈資本的収支〉	1,505万円	2億2,838万円	▲2億1,333万円
病院事業会計〈収益的収支〉	10億8,409万円	11億6,255万円	▲7,846万円
病院事業会計〈資本的収支〉	2,239万円	1億2,554万円	▲1億315万円
合計（一般会計を含む）	163億5,867万円	157億4,793万円	6億1,074万円

次に、特別会計・事業会計の決算状況を見てみよう！

※特別会計・事業会計は、一般会計と区分し特定の収入と支出で経理を行う会計です。

公営企業における資金不足比率について

水道、町立病院、下水道、農業集落排水の全会計について、資金不足は発生していないため比率はありません。

財政の健全化及び財政の再生並びに公営企業の経営の健全化を目的として制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、健全化判断比率及び資金不足比率について公表が義務付けられています。

令和2年度決算に基づく本町の状況は、下記のとおり全て早期健全化基準を下回りました。引き続き健全な財政運営に取り組んでまいります。

令和2年度決算に基づく「健全化判断比率」を公表します！

実質公債費比率は増加・将来負担比率は改善

■健全化判断比率（速報値）

(単位：%)

比率名	本町の状況	早期健全化基準	財政再生基準	参考：昨年度の状況
①実質赤字比率	－（赤字なし）	15.00	20.0	－（赤字なし）
②連結実質赤字比率	－（赤字なし）	20.00	30.0	－（赤字なし）
③実質公債費比率	8.7	25.0	35.0	8.4
④将来負担比率	57.5	350.0		64.5

①実質赤字比率：1年間の家計に占める赤字の割合 ②連結実質赤字比率：2世帯住宅などの場合、それぞれの世帯の家計を合算した家族全体での1年間の家計に占める赤字の割合 ③実質公債費比率：年収に占めるローン返済額の割合 ④将来負担比率：ローン残高や生命保険の支払いなどが年収の何年分に相当するかを示した割合

それぞれの比率を家庭に例えると...

